

令和4年度 ブロック別研修会の取組 実践発表 ～香南ブロック 香南市立赤岡保育所～

1 所の概要

○園児数、クラス数、職員構成

年齢	0歳児	1歳児		2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
クラス	ひよこ	ちゅうりっぷ	たんぽぽ	いちご	うさぎ	きりん	くま	
園児数	6	12	11	18	17	12	12	88
担任	2	2	2	3	3	2	1	15
その他	所長 1 副所長 1 家庭支援 1 看護師 1 午前保育補助 2 午後保育補助 9 調理員 4 一時預かり 2							

○めざす子ども像

- ・ 人の話を聴く・話す力が身についた子ども
- ・ 好きなあそびを見つけて集中してあそべる子ども
- ・ ルールを理解し守る力が身についた子ども
- ・ よりよい人間関係を作る力を持つ子ども
- ・ 五感を十分に使い、豊かな感性を身につけた子ども

○保育目標

自分大好き・友だち大好き・あかおかっ子

2 研修目標

「一人一人の心が満たされ、意欲的に遊びや生活を進めるための環境
構成と保育者の援助とは
～しなやかな体を育てるための保育者の援助と環境構成を考える～」

3 研修目標設定の理由

○研修目標設定の理由

自分からやってみようとしたり、難しいことでも諦めずにやり遂げようとしたりする力を育てたいと思い、心と体は密接な関連をもっていることから、しなやかな体を育てることがしなやかな心を育てることにつながるのではないかと考えた。そこで、子どもが自ら動きたくくなるような、子どもの興味や発達段階に応じた環境構成や保育者の援助について考え、研究を深めていきたい。

○めざす子どもの姿

十分に心や体を動かしながら遊び、楽しかったという充実感や満足感、できたという達成感を味わい、自分に自信をもち様々な物ごとに取り組む子ども

4 年間取り組み内容

4月	<ul style="list-style-type: none"> ・研修目標についての共有 ・わらべうた講習会 	10月	<ul style="list-style-type: none"> ・1歳児研究保育と協議 ・保小リズム講習会
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイドラインを活用した保育実践の確認 		
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・3歳児事例研修 ・親育ち支援研修（パート職員） 	11月	<ul style="list-style-type: none"> ・1、2、4、5歳児公開保育
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児教育研究協議会発表資料作成に向けた協議 ・人権レポート検討 	12月	<ul style="list-style-type: none"> ・1歳児研究保育と協議 ・ガイドラインを活用した保育実践の振り返り ・1年間の振り返り
		1月	<ul style="list-style-type: none"> ・人権レポート検討 ・エピソード研修 ・ボディパーカッション講習会
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・5歳児研究保育と協議 	2月	<ul style="list-style-type: none"> ・13ブロック交流会への参加
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・3歳児研究保育と協議 	3月	<ul style="list-style-type: none"> ・総括と次年度へ向けての計画作成

5 成果

①子どもの姿の変容

(0、1、2歳児)

- 身の回りのことを保育者と一緒に自分からしようとするようになってきた。
- 周囲の子どもと関わろうとしたり、同じようにやってみようとするようになってきた。
- 様々な感触のものを手にしたり、触ったりして関わるようになった。
- 不安定な場所や坂道などをバランスをとりながら歩いたり、上り下りしたりするようになった。
- 初めてのことや慣れないことに自分からやってみようとするようになった。
- 自分なりに思いを伝えた後に相手の反応を見たり、相手の思いを聞こうとするようになってきた。

2歳児 9月

鉄棒にぶら下がろう
と背伸びをしてみたり、
つかまってぶら
下がったりしている。

握力やジャンプ力、
腕で体を支える筋
力を使っている。

写 真

2歳児 12月

鉄棒にぶら下がる為にベンチを移動させ、ベンチを踏み台にして、両手両足をかけてぶら下がり「おさるさん。」と言う。

自分なりに試しながら、いろいろなぶら下がり方を楽しんでいる。

写 真

5 成果

①子どもの姿の変容

(3、4、5歳児)

- 意欲的に活動に取り組むようになった。
- 少し難しいことに挑戦するようになった。
- 難しいことやできないことに諦めずに挑戦するようになった。
- 根気強さが育っている。
- 遊びの中で決めたルールを守るようになった。
- 相手の話を聞く力や自己を抑制する力が育っている。
- 仲間で協力し合う気持ちが育っている。
- 友達同士で教え合ったり、励まし合ったりして、友達同士のつながりが深まっている。
- 姿勢の保持ができるようになってきた。
- ボール投げや縄跳びなど、ぎこちない動きが少しずつしなやかになってきた。
- 走る時に足裏でしっかり蹴って走るようになってきた。
- 体を動かすことが楽しいと感じる子どもが増えた。
- 自分の思いを言葉で伝えるようになった。

4歳児 10月

5歳児と一緒に円形ドッジボールをした後、自分たちだけでやろうとしている。

写 真

写 真

- 簡単なルールを守って遊ぼう。(社会性)
- ボールを見ながら当たらないように体を動かす。(サイドステップ、バックステップ)
- 途中で入ってきた友達にルールの説明をする。(言葉で分かるように伝える)

4歳児 1月

片足跳びに挑戦し、手首で縄を回し、足をわずかに上げて跳ぼうとする。

体のバランスを保ちながら、しなやかに体を動かし、難しいことに意欲的に挑戦する。

写 真

5 成果

②研修体制に関わる内容

1. 年度当初に研修目標を職員間で共有し、今後の保育の方向性を確認し、明確にすることで、園全体で同じ目標に向かって意識をもち保育することができた。
2. 職員間で年間計画や月案などのカリキュラムの見直しを行い、カリキュラムマネジメントにつながった。
3. 年長児の研究保育に小学校の教員が参加し子どもの姿や保育者の関わりを見てもらい、協議で幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を共有した。そして、生活や遊びの学び、子どもの育ちを小学校につなげることができ、接続期カリキュラムを作成することにつながった。

5 成果

③保育者の意識や保育実践の変容

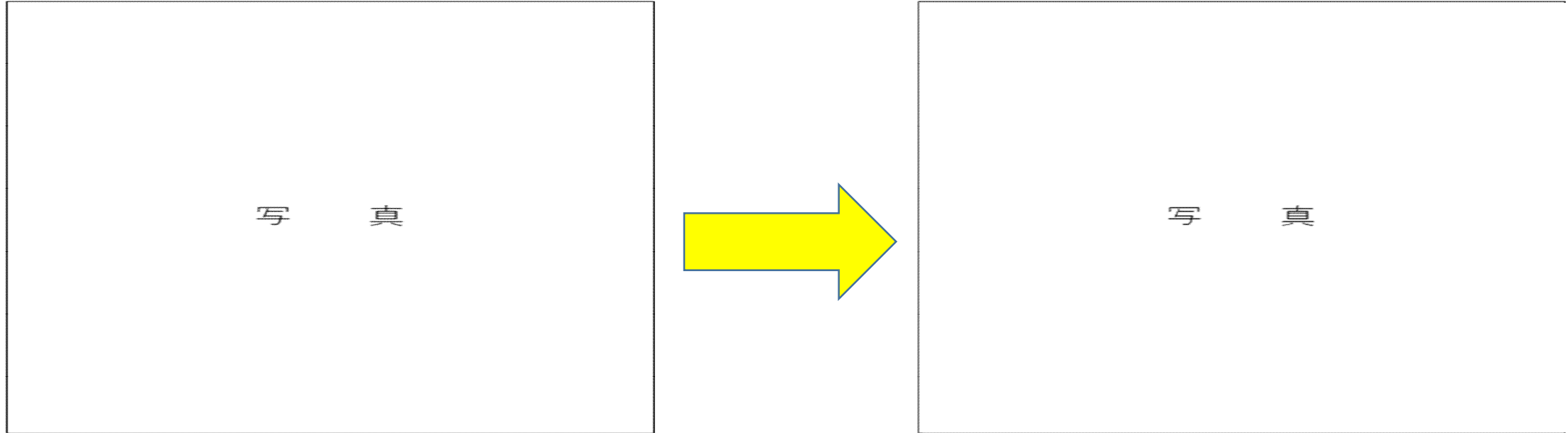
- ・子どもが遊びを選べる環境を整えるようになった。
- ・場所の使い方や空間の広さを意識した環境構成を行うようになった。
- ・子どもの年齢や育ちに合った取り組みや環境構成、保育者の援助を意識するようになった。
- ・発達に応じた遊具の選択と配置をするようになった。
- ・環境の再構成を行うようになり、遊びが広がるようになった。
- ・一人一人をより探り、子ども理解を行い、子どもの動きを予測することや課題を把握するようになった。
- ・子どもの経験していることや育ちを考えながら環境構成や援助をするようになった。
- ・経験させたいことを明確にもつようになった。
- ・職員間で保育のねらいを共有しながら子どもと関わることができた。
- ・手を出しすぎない関わりや見守りを心がけて保育するようになった。

5 成果

④公開保育を行って

- ・ 幼児理解、育ちに合った環境の工夫と再構成の大切さを再確認した。
- ・ 異年齢の活動が全てモデルになるわけではないということを職員間で共有できた。
- ・ 一人一人の育ちに合わせ、選べる環境を整え、子どもの意欲的な姿や継続して遊ぶ姿につながった。
- ・ 安全面の配慮を考えた上で、職員や遊具の配置の見直しにつながった。
- ・ 4月からの個人カリキュラムを見返し、一人一人の発達や育ちを捉え、必要な手立てが立てやすくなった。
- ・ 育ちの連続性を確かめることができた。
- ・ ねらいの重要性を改めて実感した。
- ・ ねらいを保育者間で共有することで、子どもに一貫した関わりができるようになった。遊びの環境を再構成し、遊びが広がった。

5歳児 じゃんけん陣取りの変容



ケンステップの数が多かった為、数を少なくし、ケンステップの並べ方をS字型にし、友達の様子を見えやすくした。

6 来年度へ向けて

①子どもの姿から、さらに伸ばしていきたい力

- ・ 様々なことに興味をもち、やってみようとする力
- ・ 様々なことに好奇心をもち、試したり工夫したりする力
- ・ 保育者や友達と一緒に楽しさを共有したり、思いを言葉で表現する力
- ・ 基本的な走る動きから体幹を強くし、姿勢を保つ力

6 来年度へ向けて

②研修体制・保育実践・保育の質に関すること

- ・ 2～3ヵ月ごとに計画的に教材研究に取り組む。
- ・ カリキュラム会や年齢部会、ケース会等は終了時間や持ち時間を決め、午睡時間をうまく使いながら効率よく行い、子どもの育ちに合った環境を整える。
- ・ 日頃から職員間でもっと保育を語り合い、たくさんの意見を聞き、保育に活かす。
- ・ 職員間で保育室の環境を見合う。
- ・ 他園の公開保育や行事を見る。

写真